

第5回旭市海業推進地域協議会 資料

日時：2025年10月23日(木)13:30～15:30

場所：いいおかユートピアセンター（1階大会議室）

－ 目 次 －

1. 本日ご議論いただきたいこと	1
2. 各調査および視察等の報告	2
3. 旭市海業推進事業計画の検討状況	7
4. 今後のスケジュール	10

1. 本日ご議論いただきたいこと

① 各調査および視察等の報告について

- ・各調査および視察の報告内容について、ご意見・ご質問がございましたらお願ひいたします。
- ・先進地視察(千葉県内房・南房総エリア)
- ・海匝漁協(漁業者)へのヒアリング、組合員へのアンケート調査
- ・企業等へのサウンディング調査
- ・市民・事業者・学生へのアンケート調査

② 旭市海業推進事業計画の検討状況について

- ・本計画のコンセプトや基本方針について、ご意見・ご提案がございましたらお願ひいたします。
- ・海業で検討している施設(規模・配置)や取組内容について、ご意見・ご提案がございましたらお願ひいたします。

③ 今後のスケジュールについて

- ・計画策定の進め方や今後のスケジュールについて、ご意見がございましたらお願ひいたします。
- ・次回協議会(1月下旬)における協議事項について、ご意見・ご提案がございましたらお願ひいたします。

みなさまからのご意見やご感想をぜひお聞かせください！



2. 各調査および視察等の報告

海業で検討している施設や取組に関する先進事例、特に漁協(漁業者)主体の取組を中心に視察

(1) 先進地視察【千葉県安房(内房・南房総)エリア】

※詳細は「資料2:先進地視察報告資料」をご確認ください。

① 道の駅保田小学校【都市交流施設、飲食・販売施設、温泉・宿泊施設、カフェ、RVパーク(車中泊施設)】

- ・全国で唯一「小学校」の名前を持つ道の駅であり、丁寧に練られたコンセプトが形となり、他にはない魅力を生み出している。
- ・道の駅の従業員は約70~80名(運営会社の共立ソリューションズのスタッフ:約50名、テナント(6事業者)のスタッフ:約20名)
- ・直近の年間売上は約10億円、年間来客数は約97万人。内訳は観光客が9割、地元利用は1割程度。海外からの観光客も年々増加。
- ・都市交流施設として子どもが遊べるプレイカフェなど多様な機能を備え、施設内で滞在が完結。保田漁協とは連携・棲み分けを図っている。

② 鋸南町保田漁業協同組合【漁協直営食堂ばんや、ばんやの湯、マリーナ・ビジターバース、観光遊覧船、観光定置網漁、藻場再生】

- ・マリーナ事業は、漁協の主要収益源で、55隻係留・50隻待ち。年間売上約5,000~6,000万円、利益率6~8割と高収益。利用者は首都圏を中心。
- ・ビジターバース(短期停泊可能)は、鋸南町管理の浮桟橋で、最大50~60隻係留可能。年間売上は約2,000万円だが維持費でほぼ相殺。
- ・定置網見学クルーズは、17人乗りの船2隻で運航していたが、知床事故以降は国の基準未整備のため休止中。10月に再開予定。
- ・漁協直営食堂ばんやは、年間来客約30万人、年間売上5億円超。客単価1,700円とリーズナブルだが、食事目的の通過利用が中心で滞在性に課題。
- ・ばんやの湯は、赤字続きで9月から休業中。また、バーチャルYouTuberの魚娘とコラボ商品を作ったりと新たなことにもチャレンジ中。

③ 岩井富浦漁業協同組合【浜の台所おさかな俱楽部、筏釣・かせ釣り体験、漁業体験(地引網・定置網漁)、大漁市場】

- ・筏釣り・かせ釣り・釣り堀を運営しており、子どもたちも手軽に楽しめる釣り堀が最も集客・収益共に高い。
- ・令和元年の房総半島台風で湾内泊地の釣り堀が一部被災したが、ビジター客を中心に人気を維持している。
- ・漁協婦人部が立ち上げた「おさかな俱楽部」は、年間2万人が来訪する人気施設で、地元漁師が朝獲れ魚を販売する「大漁市場」も地域に根付いている。
- ・地引網体験は、大房岬自然の家との連携により学校団体(小中学生)の利用が続き、教育的事業(自然体験・職業体験)として定着している。

④ 房総の駅とみうら【地元魚問屋直営食堂、南房総おさかなセンター、浜焼き屋、おみやげセンター・カフェ、とみうら広場】

- ・ヤマトサカナ㈱(運営会社)は卸売から始まり、県内15漁港や豊洲から仕入れる強い調達力を持ち、鴨川のいけすセンターで鮮魚を管理。
- ・房総の駅とみうらは、年間来客約73万人、客単価約2,000円/人、駐車場250台分(ピーク時は不足)、ツアーバス(2台/日)も常時訪れる人気施設である。
- ・南房総おさかなセンターは、「千葉の地物」をテーマに干物や貝類を中心に販売し、国道沿いのロードサイドのBBQ需要に応えている。
- ・浜焼き屋は、月商約3,300万円で約4種類の貝類を常備し、海鮮丼食べ放題も提供している。

⑤ 夷隅東部漁業協同組合【港の朝市、漁協直営いさばや(直売所・食堂)、マダイ稚魚の中間育成、遊漁船】

- ・漁協直営いさばやは、市場隣の仲買詰所を改装し、漁協有志が地元産品を適正価格で販売する目的で開設、令和元年に国の交付金で建設された。
- ・漁港利用計画において、野積地を泊地へ用途変更するために3年の時間を要した。土地利用の規制調整の苦労からも、海業は非常に有用な制度である。
- ・漁協は青年部や婦人部など多様な組織を持ち、若手漁業者も多く、豊かな漁場を活かして周年操業を行っている。
- ・大原高校との連携によるマダイ稚魚の中間育成や、ヒラメ放流など、教育・資源保全活動にも積極的に取り組んでいる。
- ・港の朝市は市が主体となって3年前に協同組合化し、年間来場約15万人・売上約1.6億円と発展、市が漁協と出店者の間を調整しながら運営している。

2. 各調査および視察等の報告

(2) 海匝漁協(漁業者)へのヒアリング、漁業者へのアンケート調査

漁協(漁業者)ヒアリングでの主な意見

① 海業事業の方向性・進め方について

- ・海業の目的である「漁業者の所得向上・漁業振興」は理解できるが、**漁業者への説明が十分でなく、取組内容の認知が不足**している。
- ・アンケート調査などを通じて、**漁業者の意見を早い段階で計画に反映できる仕組み**を整えてほしい。
- 漁業者へのアンケート調査を実施し、意見や提案を計画に反映**
- ・漁業者が納得し、実益を感じられる施設整備でなければ意味がない。
- ・企業は収益性を見込んで参画するが、**漁業者がどのように所得を得るのか、現状では仕組みが見えにくい**。

② 海業の取組内容・コンテンツについて

- ・ハマグリを活用した浜焼きやPRには賛成だが、店舗運営までは難しく、**水産物提供などの協力が現実的である**。
- ・飯岡漁港では釣り客が多く、その来訪者をターゲットにした飲食や販売などの**コンテンツは有効**だと考える。ただし、釣り客をさらに増やすことが目的ではなく、**既存の来訪者が地域にお金を落とす仕組みを作ることが重要**。
- ・魚の販売については、品質によっては全量買取が難しいため、**一定の相場で安定的に買い取ってもらえる仕組み**が望ましい。
- ・海業を活用した**魚の増殖・資源回復の取組**(大学と連携したラボ設置など)を検討してほしい。

③ 漁業での運営面・安全面について

- ・現状でも釣り客が多く、漁業者と一般利用者との間で**トラブルや安全上の課題**が生じている。**釣り客のマナー向上**を求める漁業者も多い。
- ・漁業者の作業エリアと釣り客など海業利用者のエリアは、**人や車の動線を含めて明確に区分し、ゾーニングを徹底**する必要がある。
- 漁業利用と海業利用の棲み分け(ゾーニング)(案)を提示**
- ・一般来訪者が漁業作業区域に立ち入らないよう、**安全に配慮した施設設計や利用ルールの整備**を行うべきである。
- ・駐車場の**有料化**は、利用者減少の懸念があるため慎重に検討すべき。

漁業者(組合員)へのアンケート調査概要

◆ 調査対象

海匝漁業協同組合の組合員(漁業者)：約90名

◆ 調査スケジュール

10月下旬～11月上旬：組合員へアンケート配布・回収

11月中旬～11月下旬：アンケート調査結果を基に漁協と協議

11月中：漁協(漁業者)の意見・提案を計画に反映

◆ 主な調査項目

※詳細は「資料3：アンケート調査シート(漁業者・組合員向け)」
をご確認ください。

- ・漁業者の事業構成および**海業への関心**について
- ・海業で導入を検討している施設や取組について
- ・飯岡漁港および周辺地域の**現状**について
- ・全体構想(計画の**方向性や整備の方針**)について

■ご自身(漁業者)の事業構成および海業への関心についてお聞きします。

Q1:ご所属

()

※所属団体名や船団名など、分かる範囲でご記入ください。

Q2:お名前

()

Q3:年齢

□10代 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代 □80代以上

Q4:性別

□男性 □女性 □回答しない

Q7:飯岡漁港の海業について関心がありますか、お聞かせください。

(1つだけ〇をしてください。)

Q5:お住まいの地域

□旭地域 □海上地域 □飯岡地域 □干潟地

1. 事業として関心がある
2. 事業化はわからないが関心がある
3. 事業の内容が決まってから判断したい
4. 今のところ関心はない
5. その他()



Q6:漁業の事業構成についてお聞かせください。(1つだけ〇をしてください。)

1. 漁業専業(漁業の売上が100%)【漁業種類:】

2. 漁業主業(漁業の売上が50～100%)

【漁業種類:】【漁業以外:】

3. 漁業以外が主業(漁業の売上が50%未満)

【漁業種類:】【漁業以外:】

4. その他()

Q8:飯岡漁港で現在検討している海業について、下記の事業の導入を想定しています。あなたが取り組んでみたいと思う事業についてお聞かせください。(該当するものすべてに〇をしてください。)

◆飲食・物販施設(水産物の飲食・販売、浜焼き、BBQ、カフェ、市場など)

1. 取り組んでみたい 2. 取り組んでみたいとは思わない 3. わからない

◆宿泊施設(RVパーク・車中泊施設)、グラビング、キャンプ場など)

1. 取り組んでみたい 2. 取り組んでみたいとは思わない 3. わからない

◆漁業体験施設(漁船クルージング、船釣り、漁業体験、海の環境学習など)

1. 取り組んでみたい 2. 取り組んでみたいとは思わない 3. わからない

◆漁港活用施設(釣り竿レンタル・海上釣堀施設、未利用魚ミニ水族館、ジップライン、ヒラメ等の中間育成、藻場造成など)

1. 取り組んでみたい 2. 取り組んでみたいとは思わない 3. わからない

Q9:Q8 の事業で期待する売り上げについて、お聞かせください。(自由回答)

()万円/年

2. 各調査および視察等の報告

*詳細は「資料4:サウンディング・ヒアリング調査実施先リスト」「資料5:サウンディング調査結果(途中経過報告)」をご確認ください。

(3) 企業等へのサウンディング調査

サウンディング調査(1回目:個別対話)における主な意見を整理

調査概要

【目的】

海業事業に関する事業者の参加意向
や地域資源のポテンシャル、市場性
等の把握のため

【スケジュール】

9月上旬～10月上旬

1回目(個別対話)の実施



10月下旬～11月中旬

2回目(意見交換会)の実施

事業スキーム検討など
より詳細について確認



調査実施先

地元企業、PPP/PFI事業経験企業、
海業コンテンツに関わる企業

事業への参画や意見交換が 計17社
期待できる事業者・団体

【内訳】

- ・デベロッパー建設関連:5社
- ・小売・流通関連:2社
- ・一次産業(食)関連:2社
- ・教育・体験・キャンプ関連:2社
- ・旅行・観光関連:1社
- ・コンサルタント:1社
- ・地域事業者(道の駅など):3社
- ・公益団体:1団体

① 事業対象地(飯岡漁港)のポテンシャル・課題について

- ・飯岡漁港は、富士山や九十九里海岸を一望できる優れたロケーションを有し、極めて高いポテンシャルを備えている。
明確なコンセプト設定と面的な施設整備をしっかりと行うことで、首都圏からの集客も十分に期待できる。
- ・漁港へのアクセスや観光地としての認知度の低さが課題であるが、海業による新たな機能導入で改善の余地がある。
- ・県内でも屈指の釣り場として認知され、釣りを核とした観光振興の可能性が高い(釣り場としてのポテンシャルもある)。
- ・周辺に観光コンテンツや滞在型施設が少なく、単体での集客には限界がある。地域全体としての連携が必要である。
- ・地場水産物(ハマグリ・イワシなど)を飯岡で水揚げし、旭市内で直接販売できれば、漁業者の販路拡大につながる。

② 海業で導入を検討している機能・施設(取組)について

- ・漁港周辺には人気の飲食店が多く、週末は駐車場不足等で入れないことが多い。地元の人気店を集めた飲食エリアを展開すれば一定の需要が見込める。
- ・来訪客にとって大手チェーンよりも「漁協直売」「地元加工業者の出店」などの地元らしさが魅力的。漁協婦人部が運営する食堂のような、立地に左右されない強いコンテンツが求められる。
- ・県内屈指の釣り場で、釣りを核とした観光振興が期待できる中で、駐車場・トイレ・魚の洗い場などの施設整備を求める声も多い。一方で、釣り客のマナー向上や地域への還元を図るため、駐車場の有料化や釣り場利用料の導入など、収益循環の仕組みづくりが重要。
- ・現状の取組は観光色が強く、水産業の強化や漁業者の所得向上に直結する要素が少ないように見える。
- ・グランピング施設は市場が下火であり、宿泊機能としての導入は慎重に検討すべき。
- ・一括的に整備する場合、飲食施設は30～100坪、物販施設は200坪、浜焼き施設は250～300坪(約250名収容)、カフェは50～60坪が目安であり、駐車場は最低300台、可能であれば400～500台の確保が望ましい。

③ 事業スキーム・事業期間について

- ・地域の中核企業との連携は極めて望ましい。メッセージやプランディングを共有できるパートナーとの協働が理想。
- ・事業期間は社会情勢の変化や事業形態を踏まえ、10～20年程度を現実的な期間として想定。※短期化の傾向
- ・専用部分(施設・店舗)は民間が整備し、インフラや共用部分は行政による整備を希望する事業者も多い。

④ 事業の参画意向について

- ・今後も関係部署と連携し、サウンディングや意見交換を継続していきたい事業者が一定数見られた。
- ・単独での参画は難しいが、エリア全体で賑わいが生まれる取組であれば前向きに検討したい。
- ・周辺事業者や参加企業の動向が分かると検討しやすいため、サウンディング参加者の情報を共有してほしい。
- ・事業採算性や区画条件を踏まえ、一定の規模で統一的な運営が可能な形での参画を望む。

⑤ その他

- ・竣工まで時間を要するため、まちびらき前から段階的に取組(イベント・ソフト事業)を進めることが重要である。

2. 各調査および視察等の報告

(4) 市民・事業者・学生へのアンケート調査

※詳細は「資料6:アンケート調査シート(市民・事業者・学生向け)」「資料7:アンケート調査結果速報(事業者・学生)」をご確認ください。

- ・飯岡漁港における現状把握(認知度・訪問目的や頻度)を目的としたアンケート調査を実施。

旭市(飯岡漁港)の海業推進に向けた現状把握に関するアンケート調査

【調査目的】

- ・飯岡漁港における現状把握
(認知度・訪問目的や頻度)のため。
- ・市民・市内事業者の海業で利用したい施設・機能などを把握するため。

【調査対象】

- ・市民 ※200人程度・市外来場者を含む
- ・市内事業者 ※産業まつり出展者(110事業者)
※13事業者回答(10/20時点)
- ・県立旭農業高校、東総工業高校の学生
※153名回答

【実施方法】

- ・直接質問:市民
- ・WEB:市民・市内事業者・学生

【実施日・実施場所】

- ・市民:11/9(日)・旭市産業まつり会場内
- ・事業者:10/9・出展者説明会にて配布
- ・学生:9/30・各高校にて配布

【主な設問項目】

- ・飯岡漁港の認知度(訪問可否)
- ・飯岡漁港の訪問目的や頻度
- ・海業で利用したい施設・機能 など



【調査結果(学生)】

飯岡漁港を利用した目的について※(学生:56名)※複数回答

- ・飯岡漁港を利用した学生56名のうち、多くが釣りやイベントを目的に訪れていた。イベント時に利用が集中する一方、釣りは季節を問わず一定の利用があり、継続的な来訪要因となっている。(図1)

思わず行きたくなる施設の条件について※複数回答

- ・「雰囲気の良さ」や「楽しさ・体験性」が過半数を占めており、体験型コンテンツへの需要がうかがえる。(図2)



図1 飯岡漁港を利用した目的について(学生)(65名回答)※複数回答

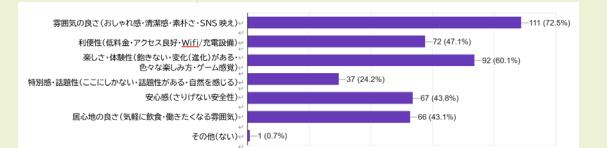


図2 思わず行きたくなる施設の条件について(学生)(153名回答)※複数回答

【調査結果(事業者)】※ 10/20時点

飯岡漁港の海業の関わり方について(事業者:7事業者)

- ・事業として関心があると回答した7事業者のうち、出店を希望する事業者は過半数を超えており、一定の参入意欲が確認される。(図3)

飯岡漁港の海業整備の進め方について

- ・事業者のうち、約77%が、「段階的に整備を進める方法」が望ましいと考えており、地元の良さを生かしながら事業を着実に推進していくことが重要である。(図4)

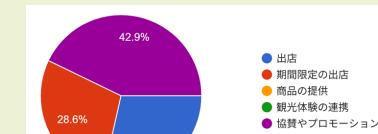


図3 飯岡漁港の海業の関わり方について(事業者)(7事業者回答)

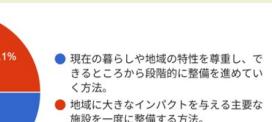


図4 飯岡漁港の海業整備の進め方について(事業者)(13事業者回答)

2. 各調査および視察等の報告

(5) 旭市の水産業・観光業の特性および課題(既存資料より)

- 既存資料より、旭市の水産業・観光業の特性および課題を整理した。

【水産業】

地域特性

- 旭市は県内第2位の水揚げ量を誇り、イワシ・ハマグリ・シラウオの漁獲が盛んである。
- 旭市水産加工業協同組合には20社の企業が参画しており、水産加工業の基盤が形成されている。
- まき網漁業が全体の約9割を占め、千葉県内のまき網漁獲量の約5割を旭市が担っている。
- 加工品には、いわしの丸干しやみりん干し、サバを原料にしたさばフィーレ、ハマグリをレトルト加工したレトルト蛤などの加工品がある。

課題

- 域外(市外)から外貨を獲得できるほど、水産業の生産額の規模は大きくなく、さらに地域内需要を十分にまかなえていない。(純移輸出額がマイナス)
- 漁獲物の一部は銚子漁港で水揚げされており、地元での流通や附加值化が十分でない。
- 漁獲量の減少、就業者の減少、高齢化が進行しており、持続的な水産業の維持が課題となっている。



【観光業】

地域特性

- 屏風ヶ浦・刑部岬などの断崖絶壁や太平洋を望む眺望スポットがあり、絶景を求める観光客に高い訴求力を持つ。
- 九十九里浜に面しており、海水浴・サーフィン・釣りなどの海を活用したアクティビティが充実している。
- 観光地別入込客数では「道の駅 季楽里あさひ」が最多で、地元住民を含めた交流拠点となっている。
- 「旭市七夕市民まつり」や「旭市いいおかYOU・游フェス」などのイベントを目的とした来訪者が多い。
- 遊漁船・釣船の利用者は年間3万人(令和5年)で、レジャー型漁業観光が一定の規模を持つ(遊漁船業者ヒアリングより)。

課題

- 年間観光客数は増加傾向にある一方で、約8割以上が日帰り客であり、宿泊・滞在型観光への展開が課題となっている。
- 長年の地域観光地としてのブランド力や全国的な知名度はまだ十分とは言えない。



3. 旭市海業推進事業計画の検討状況

(1) 各調査および視察等のまとめ

①先進地視察(千葉県内房・南房総エリア)

- ・道の駅保田小学校は、「小学校」という丁寧に練られたコンセプトを体現し、首都圏や海外の観光客を惹きつける「ここに来たい」と思わせる施設となっている。
- ・保田漁協は、現状厳しい事業(漁船クルーズ・ばんやの湯)もあるが、マリーナ・食堂・YouTuberとの連携など多角的な事業展開で収入の安定化を図っている。
- ・岩井富浦漁協は、漁協主体で食堂や漁業体験を運営し、手軽に楽しめる釣り堀が最も集客・収益が高い。また、大房岬自然の家との連携による小中学生の地引網体験も教育事業として定着している。
- ・房総の駅とみうらは、南房総おさかなセンターや浜焼き屋など千葉の地物を活かした施設が好調で、来場者が楽しめる工夫や充実したコンテンツを備えている。
- ・夷隅東部漁協は、漁協直営「いさばや」開設時に野積地から泊地への土地利用変更に約3年を要するなど規制調整に苦労した経験から、海業制度を有効と評価している。また、「港の朝市」の運営では当初出店者との調整に苦慮したが、市が主体となり3年前に協同組合化して以降、年間来場15万人・売上1.6億円と発展。

②海匝漁協(漁業者)へのヒアリング、漁業者へのアンケート調査

- ・漁業者への説明が十分でなく、取組内容の認知が不足している。漁業者へのアンケート調査を通じて、漁業者の意見を計画に反映できる仕組みを整えてほしい。
- ・ハマグリを活用した浜焼きやPRには賛成だが、店舗運営までは難しく、水産物提供(一定の相場で安定的に買い取ってもらえる仕組み)などの協力が現実的。
- ・海業を活用した魚の増殖・資源回復の取組(大学と連携したラボ設置など)を検討してほしい。
- ・現状、釣り客が多く訪れており、漁業者と一般利用者との間で安全上の課題が生じている。釣り客のマナー向上を求める漁業者も多く、漁業者の作業エリアと釣り客をはじめとする海業利用者のエリアは、人や車の動線を含めて明確に区分し、ゾーニングを徹底する必要。

③企業等へのサウンディング調査

- ・飯岡漁港は、富士山や九十九里海岸を一望できる優れたロケーションを有し、極めて高いポテンシャルを備えている。明確なコンセプト設定と面的な施設整備をしっかりと行うことで、首都圏からの集客も十分に期待できる。一方で、漁港へのアクセスや観光地としての認知度の低さが課題となっている。
- ・漁港周辺には人気の飲食店が多く、週末は駐車場不足等で入れないことが多い。地元の人気店を集めた飲食エリアを展開すれば一定の需要が見込める。
- ・来訪客にとっては、「漁協直営」「地元加工業者の出店」などの地元らしさが魅力的。漁協婦人部食堂のような立地に左右されない強いコンテンツが求められる。
- ・県内でも屈指の釣り場として認知され、釣りを核とした観光振興の可能性が高い(釣り場としてのポテンシャルもある)。一方で、駐車場・トイレ・魚の洗い場などの施設整備を求める声も多い。釣り客のマナー向上や地域への還元を図るため、駐車場の有料化や釣り場利用料の導入など、収益循環の仕組みづくりが重要。
- ・ある程度の規模感で事業に参画したい事業者もあり、また、専用部分(施設・店舗)は民間が整備し、インフラや共用部分は行政による整備を希望する事業者も多い。

④市民・事業者・学生へのアンケート調査

- ・【学生】飯岡漁港には釣り(年に数回)やイベントで訪れる学生が多く、「雰囲気の良さ」や「楽しさ・体験性」を重視する傾向があり、体験型コンテンツへの関心が高い。
- ・【事業者】事業参画(出店・協賛)への意欲が一定程度見られ、地域内の連携も期待できる。また、現在の暮らしや地域特性を生かした段階的な整備を望む声が多い。

⑤旭市の水産業・観光業の特性および課題(既存資料より)

- ・域外(市外)から外貨を獲得できるほど、水産業の生産額の規模は大きくなく、さらに地域内需要を十分にまかなえていない。(純移輸出額がマイナス)
- ・漁獲物の多くは銚子漁港で水揚げされており、地元(市内)での流通や水産物の付加価値化が十分でない。
- ・地域観光地としてのブランドや知名度は十分でないものの、遊漁船・釣船の年間利用者は約3万人に上り、地域資源を生かした水産業・観光業連携が期待される。

3. 旭市海業推進事業計画の検討状況

(2) 計画のコンセプト・基本方針(案)

コンセプト(案)：海を眺める場から、感じ・学び・関わる場へ



魚を増やす

魚を売る

①今ある漁業を守りながら
無理のない発展を目指す

- ・現在の漁業活動を大切にし、既存の収益構造を損なわないようする。
- ・海業を通じて新たな可能性を少しずつ広げながら、漁業活動の改善や収入の安定化を図る。
(損をしない、無理をしない取組推進)

魚を活かす

②来訪者(釣り客)の利用環境改善と
マナー向上

- ・海業を通じて来訪者(釣り客)に必要な環境を整え、漁業者との棲み分けを明確にする。
- ・利用ルールを整え、漁業者の収益にもつながる仕組みを作る。(駐車場・トイレ・洗い場の整備・有料化など)

魚を売る

魚を活かす

③地域・民間企業との連携と
漁業者の誇りの醸成

- ・海業を通じて漁業者・地域・民間企業が連携し、互いに利益を生み出す仕組みをつくり、地域経済の循環を促す。
- ・漁業者・地域住民・企業が協働・交流できる場を整え、漁業者が誇りを持てる地域づくりを進める。

計画のコンセプト・基本方針(案)についてご意見・ご提案があればお願ひいたします！

3. 旭市海業推進事業計画の検討状況

(3) 海業で検討している施設・取組のゾーニング(案)

*詳細は「資料8:漁業利用・海業利用の棲み分け方針(案)」
をご確認ください。

【エリア①-1】

水産物の消費増進

*民間資本の活用による施設整備を想定

- ・飲食施設(小中規模の飲食店)
- ・浜焼き施設
- ・物販施設 ハマグリ・イワシなどの地場水産物(加工品含む)を海業施設で取り扱い
- ・カフェ

【エリア①-2】

漁港利用者の利便性向上

*民間資本の活用による施設整備を想定

- ・駐車場 駐車場は有料化を想定
- ・RVパーク 地元利用者とビジターで料金を区分する方向で検討
- ・(車中泊施設)
- ・シャワー施設(トイレ併設)

【エリア③】

体験・学習等による交流促進

- ・船釣り →釣り客用スペース(洗い場・捌き場)
- ・漁業体験
- ・市の観光窓口
- ・イベント利用スペース
- ・未利用魚ミニ水族館

【エリア②】体験・学習等による交流促進

*民間資本の活用による施設整備を想定

- ・駐車場 イベント利用可能な緑地駐車場の整備を想定
- ・釣堀運営施設 →釣り竿レンタル
- 釣り客用スペース(洗い場・捌き場)
- ・トイレ

【エリア⑤】

水産物の消費増進

- ・ヒラメ等の中間育成場
- ・釣堀用いかだ設置
- ・藻場造成

漁業者(組合員)へのアンケート・ヒアリング
結果を踏まえ内容を更新予定

管理釣り場は有料化を想定
地元利用者とビジターで料金を区分する方向で検討

【エリア④】

体験・学習等による交流促進

- ・屏風ヶ浦を活用した遊覧船・漁船クルージング
- ・ジップライン

凡例

← : 道路の動線

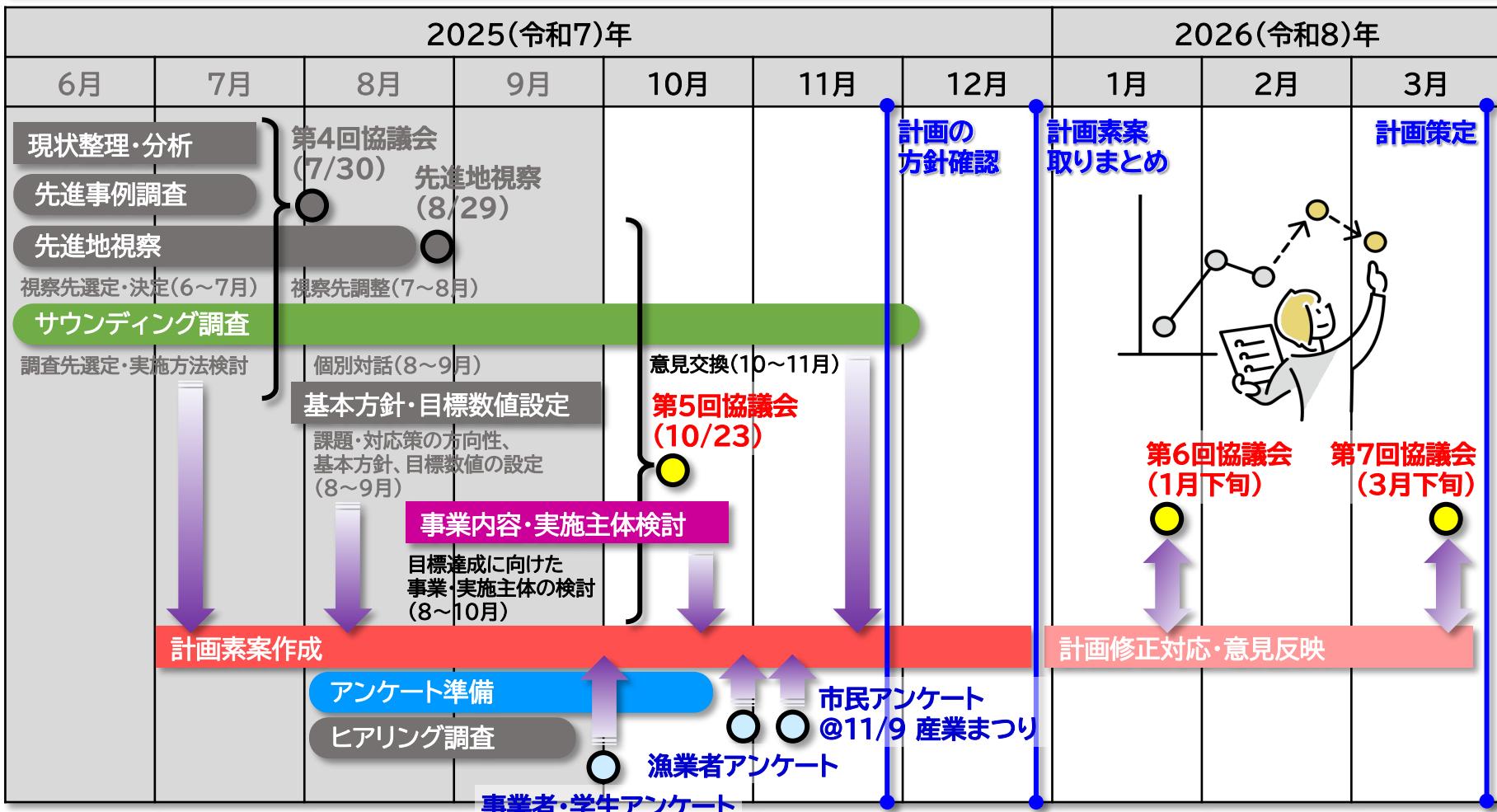
■ : 漁業利用範囲

海業で検討している施設や取組内容についてご意見・ご提案があればお願いいたします！

3. 今後のスケジュール

(1) 計画策定までのスケジュール

- ・第6回協議会(1月下旬)にて**計画の素案**、第7回協議会(3月下旬)にて**計画最終版**を提示。
- ・次回協議会では**漁業者の意見を反映し、計画をより体系的に整理した内容**を提示予定。



3. 今後のスケジュール

(2) 協議会スケジュールおよびアジェンダ(案)

- ・次回、**第6回協議会(計画の素案・実施予定の海業の取組など)**は**1月下旬**ごろを予定。
- ・10月下旬に**漁業者アンケート**、11/9の産業まつりで**市民アンケート**(千葉工業大と連携)を実施予定。

2025(令和7)年						2026(令和8)年		
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
#4 ★	先進地視察 ★	事業者・学生 アンケート ★	サウンディング①(個別対話) ↔	サウンディング②(意見交換) ↔	#5 漁業者アンケート ★ ★ ★ 市民アンケート@産業まつり		#6 ★	#7 ★

第4回	7月30日	●「旭市海業推進事業計画」の策定について(計画策定の背景・目的、旭市の地域特性および課題など) ●先進地視察について ●全国・県内の先進類似事例紹介 ●サウンディング調査について ●今後のスケジュール
-	8月29日	●先進地視察 ※千葉県安房(内房・南房総)エリア
-	10月上旬	●事業者(産業まつり出展者)・学生(旭農業高校・東総工業高校)アンケート調査 ※千葉工業大と連携
⑤ 第5回	10月23日	●各調査および視察等の報告 ●旭市海業推進事業計画の検討状況 ●今後のスケジュール
-	10月下旬	●漁業者(海匝漁協)アンケート調査
-	11月9日	●市民アンケート調査@旭市産業まつり ※千葉工業大と連携
第6回	1月下旬	●「旭市海業推進事業計画」の素案について ●各調査の最終結果報告 ●実施予定の海業の取組について(実施主体・時期、各事業のビジネスモデル、経済波及効果算出結果など)
第7回	3月下旬	●「旭市海業推進事業計画」の承認について

スケジュールおよびアジェンダ案についてご意見があればお願ひいたします！

